

**平成 30 年度
個人評価の集計・分析**

芸術地域デザイン学部

評価委員会

令和元年9月

目 次

1	個人評価の実施状況	
	(1) 対象教員数、実施率等	3
	(2) 実施概要	3
2	評価領域別の集計及び分析	
	(1) 教育の領域	5
	(2) 研究の領域	6
	(3) 国際・社会貢献の領域	7
	(4) 組織運営の領域	8

1 個人評価の実施状況

(1) 対象教員数、実施率等

平成 30 年度個人評価では、対象となる教員 26 人全員が活動実績の報告を行った。

平成 30 年度個人評価実施率

コース	対象教員数 (人)	未提出者数 (人)	実施率 (%)
芸術表現コース	12	0	100
地域デザインコース	14	0	100
合計	26	0	100

(2) 実施概要

① 評価組織の構成

学部長	小坂 智子
教育研究評議員	荒木 博申
副学部長	山下 宗利
副学部長	徳安 和博
芸術表現コース	赤津 隆
地域デザインコース	中村 隆敏
事務長	馬場 勝利

② 実施内容、方法

佐賀大学芸術地域デザイン学部における教員の個人評価に関する実施基準（平成 28 年 7 月 20 日制定）に基づき、平成 30 年度の活動実績について、4 領域（教育、研究、国際交流・社会貢献、組織運営）の個人評価を行った。

③ 個人評価の経緯等

- ・平成 31 年 4 月 20 日（土）付で中村副評価委員長から、対象教員に対し、個人評価関係書類（活動実績報告書（様式 2）、自己点検・評価書（様式 3））をメールにて送信し、令和元年 5 月 7 日（火）までに、コース担当者（芸術表現コース：赤津、地域デザインコース：中村）に提出するよう依頼した。
- ・提出された関係書類（様式 2、3）について、学部評価委員会を開催し審査を開始した。対象教員 26 人全員の個人評価を行った結果、各教員による自己点検・評価の結果は、概ね妥当と判断した。
- ・学部長から、対象教員に対し、令和元年 9 月 3 日（火）付で個人評価結果を通知した。その際、評価結果に対して不服がある場合は、令和元年 9 月 17 日（火）までに不服申立書（様式任意）を学部長あて提出するよう付記した。
- ・不服申立書を提出した教員はいなかった。

④ コースごとの個人評価結果と平均値は、以下のとおりである。

平成 30 年度個人評価結果 単位：人

	芸術表現 コース	地域デザイン コース	計
5.0~4.5 以上	11	12	23
4.5 未満~4.0 以上	1	2	3
4.0 未満~3.5 以上	0	0	0
3.5 未満	0	0	0
計	12	14	26

平成 30 年度個人評価平均点

	芸術表現 コース	地域デザイン コース	学部平均
教育領域	1.54	1.82	1.69
研究領域	1.37	1.43	1.41
社会貢献・国際交流領域	1.02	0.75	0.87
組織運営領域	0.93	0.85	0.89
計	4.86	4.85	4.86

2 評価領域別の集計及び分析

(1) 教育の領域

個人評価平均点をみると、教育領域の学部全体の平均点は1.69であり、前年度から0.01ポイントの低下であった（芸術表現コースが1.59から1.54、地域デザインコースが1.79から1.82）。両コースとも高得点を維持している傾向に変わりはない。

事項別にみると、講義時間数は、芸術表現コース教員と地域デザインコース教員の間には大きな差異はない。教養教育、学部および大学院の担当時間数の合計値は、それぞれ5984、6013時間であった。この動向は前年度からの両コースの平準化傾向がさらに強まったと言える。学年進行に伴い、各教員の授業担当がほぼ一定の水準に到達したことが要因と思われる。教育改善の実績事項においては、両コースとも授業評価を参考にした授業内容・方法の改善とTA・RAの採用、各種研修会への参加の伸びが大きい。学生支援面においては、初めての卒業生の輩出を前に就職のための学生支援が拡大している。一方で研究指導の実績数においては、学部のみならず大学院においても件数が減少しており、研究成果発表の指導件数も減少していることが危惧される。

領域	事項	区分	芸術表現 コース	地域デザイン コース	計	
教育	講義	教養教育担当時間数	489.5	474	963.5	
		学部担当時間数	4656	4422.4	9078.4	
		大学院担当時間数	838	1117	1955	
	教育改善の実績(該当箇所に1を記入)	授業評価を参考に授業内容・方法の改善		9	11	20
		授業のための教材等の作成		10	11	21
		教育内容等に関する研究活動		4	7	11
		TA・RAの採用		2	4	6
		HPを通じた全ての担当科目のシラバス公開		11	14	25
		HPを通じた全ての担当科目の成績評価の方法・基準等の作成		12	14	26
		教育関係の研修への参加		11	13	24
		リメディアル教育の実施		4	1	5
		公開授業の実施		2	4	6
	その他の教育改善		3	5	8	
	学生支援の実績(該当箇所に1を記入)	オフィシアワーの実施		12	13	25
		研究生の指導		0	6	6
		学生研修の引率		8	11	19
		就職のための特別指導		7	8	15
		学生の海外派遣		5	3	8
		短期プロ等による留学生指導		3	1	4
		学年担任, クラブ顧問		12	14	26
		留学生・社会人・障害者の持続的な生活指導等		2	3	5
		その他の学生支援		7	6	13
	研究指導	学部主査(件)		20	18	38
学部副査(件)			27	13	40	
大学院主査(件)			10	9	19	
大学院副査(件)			13	14	27	
研究成果発表の指導(件)			9	6	15	

(2) 研究の領域

芸術表現コースと地域デザインコースでは、教員の研究のスタイルが大きく異なり、前者では「国内外学術活動」での実施件数が多い(42件)のに対し、後者では「学会発表」(16件)や「学会出席」(27件)での実施件数が多い。「国内での専門分野の学術活動」は、両コースともに10件程度と比較的活発である。いずれにしろ、それぞれの分野の特色を活かした研究活動が活発に行われており、次年度以降も継続したい。外部資金に関しては、両コースともに研究責任者としての採択があり、採択件総数(分担者と研究協力者を含む)が16件と、前年度の件数(17件)をほぼ維持しており、努力の成果が認められる。

領域	事項	区分	芸術表現 コース	地域デザイン コース	計
研究	専門書等の出版	母国語&単著(編)	0	0	0
		母国語&共著(編)	2	0	2
		母国語以外&単著(編)	0	0	0
		母国語以外&共著(編)	0	1	1
	国内外学術活動	全国規模の芸術活動・演奏活動・競技活動(件)	12	7	19
		その他の芸術活動・演奏活動・競技活動(件)	27	0	27
		海外での芸術活動・演奏活動・競技活動(件)	3	3	6
	国内学術雑誌への記載	第一著者&審査制(編)	0	1	1
		第一著者&無審査制(編)	1	2	3
		第一著者&紀要	1	5	6
		第一著者以外&審査制(編)	0	0	0
		第一著者以外&無審査制(編)	0	0	0
		第一著者以外&紀要	1	3	4
	海外学術雑誌への記載	第一著者&審査制(編)	1	0	1
		第一著者&無審査制(編)	0	0	0
		第一著者&紀要	0	2	2
		第一著者以外&審査制(編)	1	0	1
		第一著者以外&無審査制(編)	0	0	0
	国内外学術講演	海外(回)	0	1	1
		国内(回)	7	9	16
		国内での専門分野の学術活動(件)	11	10	21
		海外での専門分野の学術活動(件)	3	1	4
		国内学会賞等(件)	2	0	2
		海外学会賞等(件)	0	0	0
		国内学会の開催(件)	2	0	2
		海外学会の開催(件)	0	0	0
	学会発表等	研究発表(件)	6	16	22
		座長等(件)	4	3	7
	学会出席(回)		2	27	29
	外部資金(科学研究費を含む)申請	採択(研究責任者)(件)	1	4	5
		採択(分担者)(件)	2	7	9
		採択(研究協力者)(件)	0	2	2
		不採択(件)	7	11	18
国内外共同研究	海外(件)	0	4	4	
	国内(件)	1	6	7	
特許等		0	0	0	
その他(件)		2	14	16	

(3) 国際・社会貢献の領域

国際貢献領域では、DAE (DESIGN ACADEMY EINDHOVEN、デザインアカデミー・アイントホーフェン、オランダ)、ハレ芸術デザイン大学 (ブルク・ギービヒェンシュタイン 芸術デザイン大学ハレ、ドイツ) 交流協定に係る事業が継続して行われた。また、更なる国際交流を目的に、有田キャンパスを中心とした海外向け英語版紹介サイトを作成した。社会貢献領域では、芸術表現コースの教員は、市町村行政・教育委員会などとの組織協力 (27 件)、講習会等 (41 件) への貢献が多い。また、地域デザインコースの教員は、研究領域の特性を反映して、国や自治体など行政組織の審議委員としての貢献が突出して多く (35 件)、公開講座 (28 件) への貢献がそれに続いている。

領域	事 項	区 分	芸術表現 コース	地域デザイン コース	計
国際 交流 ・ 社会 貢献	国際貢献		0	0	0
	国際交流(件)	運営	0	3	3
		海外参加	0	0	0
		国内参加	7	1	8
	国際学会(件)	運営	1	1	2
		海外参加	0	0	0
		国内参加	0	1	1
	交流協定(件)		5	0	5
	国際協力(件)		0	0	0
	共同研究者の受け入れ(件)		1	1	2
	HP(外国語版を含む)(該当箇所1を記入)		12	7	19
	地域貢献		0	0	0
	審議委員(件)		10	35	45
	組織協力(件)		27	20	47
	講習会等(件)		41	30	71
	マスコミ(件)		25	20	45
	技術移転(件)		1	1	2
	社会参加(件)	組織を運営	1	1	2
		個人参加	4	6	10
	公開講座(件)		7	28	35
附属学校園等での共同研究(件)		2	0	2	
附属学校園等での指導助言(件)		1	2	3	
その他(件)		17	13	30	

(4) 組織運営の領域

新任教員を含め、教員全員が各々複数の全学・学部委員会に関わっている。教員数に対する委員会の数からして、多くの委員会活動に当たらざるを得ないのが実情でもあり、半数以上が委員長としての立場にある。自己点検評価の重み配分は低めに設定している教員も多いが、それぞれ着実に任にあたっているとよい。負担は極力公平になることが理想だが、委員会によって仕事量に大きな差もあり、教務や入試などは学部完成途上であることから負担が大きく、担当する委員会の数では計れないところがある。なお、教務・入試・学生・就職など、コアな委員会には、有田キャンパス所属教員を一人ずつ充てて対応している。

領域	事 項	区 分	芸術表現 コース	地域デザイン コース	計	
組織 運営	学長特別補佐・評議員・全学委員等の活動・過半数代表(件)		11	36	47	
	学部長・副学部長・佐賀大学美術館副館長(件)		2	5	7	
	学部・課程の委員・検討部会等の委員(件)		38	37	75	
	教授会・委員会の出席実績(80%以上の場合1を記入)	教授会出席		12	14	26
		研究科委員会出席		8	14	22
	大学や学部が開催する行事への参加(件)		34	28	62	
	学部の代表として全国・地区の会議・研修への参加(件)		0	3	3	
	全学教育機構運営委員・部会長(件)		0	6	6	
	入試における出題委員・採点委員等(件)		107	67	174	
	その他(件)		24	7	31	